

【足立区地域自立支援協議会こども部会】会議概要

会 議 名	令和7年度 【第3回足立区地域自立支援協議会こども部会】
事 務 局	福祉部 障がい福祉センター
開催年月日	令和8年1月29日（木）
開催時間	14時00分 ～ 16時00分
開催場所	障がい福祉センター
出席者	小谷博子部会長（東京未来大学） 榮幸世委員（足立区手をつなぐ親の会） 寺山早苗委員（足立つくし幼稚園） 相澤まり子委員（ハートぽっぽEAST） 川松佳緒里委員（一般社団法人ねっとワーキング） 相澤政子委員（民生・児童委員） 酒井康年委員（うめだ・あけぼの学園） 河野正恵委員（都立北療育医療センター城北分園） 中村文香委員（都立花畑学園） 飯田登志恵委員（足立児童相談所） 石原雅子委員（区立あやせ保育園） 谷内新哉委員（こども支援センターげんき支援管理課） 高橋徹委員（障がい福祉センター）
欠席者	小長井亜希子委員（足立区肢体不自由児者父母の会） 池村愛委員（区立千寿桜小学校） 関口久恵オブザーバー（千住保健センター）
会議次第	1 開会 （1） 障がい福祉センター所長挨拶 （2） 経過報告 2 議事 （1） 部会長挨拶 （2） 協議 3 事務連絡 4 閉会
資料	1 こども部会次第 2 プリズム（東京都自閉症協会 会報） 3 「医療的ケア支援者向け研修」案内ちらし
その他	公開状況：公開 傍聴：なし

様式第2号（第3条関係）

1 開会

【司会 浅輪】

皆さまこんにちは。本日司会を努めさせていただきます障がい福祉センター幼児療育支援担当浅輪です。今日は雪の予報が出ていたので、どのようになるかと心配していたのですが、無事晴天で開催することができました。

では、ただいまより令和7年度足立区地域自立支援協議会こども部会第3回を始めさせていただきます。毎回のお願いですがこの部会は足立区の方で会議録を作成しまして足立区のホームページ等に掲載させていただきます。その関係で本日もこの会議の様子を録音させていただいています。ご発言の際にはご所属、お名前を最初につけていただくと助かります。

また本日なのですが、前半は分科会形式ということで今年度のまとめもあり、令和6年度、7年度の2年間続けてまいりましたこの期のまとめということもございしますので、忌憚のないご意見をいただきまして次年度へつなげていければと思います。

それでは障がい福祉センターあしすとの所長高橋よりご挨拶申し上げます。

【高橋委員】

本日はお忙しい中ありがとうございます。今年度の3回目というところでございます。日頃皆さんが話し合っていることを素直に話していただくことが良いと思いますので、本日は忌憚のないご意見をいただきながら進めさせていただければと思います。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【司会】

では、続きまして私の方から今期の経過

報告をさせていただきます。この期は令和6年度、7年度の2年間を一つの区切りにしまして、こども部会として検討を進めてまいりました。

令和6年度につきましてはすでに報告書等で皆さまにもご案内している通りです。

令和7年度につきましては、第1回が令和7年7月1日、あしすとのホールで行いました。横断的な連携という今年度のテーマに沿ってということで、皆さまから出ましたお話の内容としましては、意思決定支援やきょうだい児支援、また、インクルーシブ教育、緊急時の支援体制、つなぎ先、それから不登校や保護者への支援といったそれぞれの機関のお立場で、今課題となっていることをあげていただきました。これを受けまして第2回は、令和7年10月22日に東京未来大学を会場にお借りしまして、若者の意見を聴くということできょうだい児の当事者の方、2人の学生の方からお話をお伺いしまして、それをもとに協議を進めてまいりました。本日が第3回となりますので、引き続き活発なご協議をいただきまして、まとめへとつなげてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。では、ここからは進行を部会長にお願いしたいと思います。

【小谷部会長】

東京未来大学の小谷です。今日はお集まりいただきましてありがとうございます。大学はちょうど試験期間に入ったところで、来週終わるので来週のギャラクシティのジャパンフェスタからいろいろなボランティア活動に出ていくような状況になっています。今回大学で、きょうだい児について取り上げさせていただくことで、このネットワ

ークを通じてさらに発展させることができたという状況です。いろいろこのネットワークを通じて広がっていくことを嬉しく思っています。

今日は、グループディスカッションをしてから、課題について話し合っていこうと思います。

司会進行と発表の方を、まず選んでいただきたいと思います。

これまで部会で話し合ったことや取り組んだことを振り返っていただいて、ご自身のところで課題になっていることについて、お話を進めていただきたいと思います。

<グループディスカッション>

<協議内容の発表>

【事務局 秋山】

2班の秋山です。よろしくお願いします。2班のメンバーは、特別支援学校の先生、保育園長、げんき所長ということで話をしました。内容的なところでは、今ある課題は何なのかということで、インクルーシブのところを中心にして、深く掘り下げて話をしました。

連携の大切さや、コーディネーター研修の大切さ、それからつなげる役、保育から学校へというつながりという部分について行政の方でも担ってほしいということをお話しました。

また、学校へ入学するときのさまざまな課題、こどもの課題だけではなくて、学校側が抱えている課題も数多くあると、改めて確認できたと思います。簡単ですが以上です。

【榮委員】

第4グループです。

事務局とあしすと所長、放デイの所長と、保護者のグループです。

【小谷部会長】

まず、率直にどうでしたか。

【榮委員】

受け入れる側と、保護者側の知っている保護者像が、あまりにも違っているというギャップを感じました。

私は、年の離れたきょうだいの子育てをする中で、上の子の世代の保護者と、下の子の世代の保護者の考え方に、すごくギャップがあることを知っているのですが、その分断されているところをどう埋めていくのか、埋まらないものとして、新たに構築していくのかという課題があると思います。

事業所としては、育てていかなきゃいけないってところがあるのだと思います。育てていくうえで、相手となる保護者はどういうものかを知ってもらいたい機会になったと思います。

今の保護者は、外注、外注、サービスを使う、離乳食もオムツも外注し、外注育児というものになっていると、友だちと話したりしたことをお話ししました。

【相澤政子委員】

こちらでは、障がい福祉センターの笹原さんと、ねっとワーキングの川松さん、あけぼの学園の酒井園長と、4人で話し合いました。ここでお話ししたことは本当にいろいろな勉強になりましたし、自分にとってもすごくよかったと思っています。こども部会で話したことを、職場に戻ってみんなと話し合いましたというお話もありました。ここで出た話は足立区のホームページに載っていますので、私たちの意見をちゃんと見てもらっているということを感じました。

いろいろな話が出た中で、ここでは「引きこもり」を中心にお話をしました。

相談を受けたのが、大学を出て2～3年仕事に就いたのですが、そこでつまずいて、それから10年くらいも引きこもりだった方の相談について、お話をうかがいました。そうすると本当に根が深いなと思います。相談してきてほしいと、区の方も一生懸命頑張っているということですが、そこに出ていく一步を踏み出せないこどもも多いです。あと不登校で学校に全然行けない子が、何年か前よりも、本当に増えました。今まではクラスに1人か2人でしたが、5人くらいは普通にいます。中学校もそのようになっています。学校側でもそういった子を抱えて、考えているようです。

今後のことについてですが、課題として保護者のケアの部分も考えてほしいとか、きょうだい児のことをもっと考えてほしいとか、意思決定支援のことも、保護者任せではなく、こどもの言う通りでもなく、考えられる場所であったらいいなという話をしました。出られないこどもは相談に来てと言っても無理なので、こどもたちの好きなことをゲームでもいいし、アニメでもいいし、そういうのがあるから、「ちょっと顔を出して見に来ない？」って言うことで、一步外に出られるようになれば、一步踏み出せるのではないかという話がでました。奥が深いことなので皆さんの話を聞きながら、勉強していきたいと思います。

【事務局 杉山】

1 班の障がい福祉センター杉山です。こちらのグループは、北療育医療センター城北分園の河野さん、私立幼稚園の寺山園長、児童相談所の飯田さんが入っているグルー

プでした。

これまでの部会で取り組んできたことは実現できていないこともあるかと思いますが、とても話題の豊富な部会でした。施設を訪ねていくということもありまして、すごく楽しく参加できたという意見がありました。顔が見える関係を大切にしたいネットワークのところでは、実際にいろいろな関係機関と、直接顔を合わせて話をするのができたという部分で、よかったという意見がありました。

途中、小谷部会長に加わっていただき児童相談所に寄せられる相談についてのお話を深く聞くこともできました。

あしすの方では、幼稚園や保育園と併用する方が多くなり、保護者が、施設に足を運んでくれるということが少なくなっています。利用ニーズに応えるということと、保護者の支援をしていくということ、うまく組み合わせていく必要があるのではないかという話も出ました。

あとは少しテーマからは離れてしましますが、保育士がすごく不足していて、職員がすごく疲弊しているなということも話題に上がりました。

【小谷部会長】

今、お話をうかがってみて、ぜひうめだあけぼの学園の酒井委員に、日本全体の現状についてお話をうかがいたいと思います。

【酒井委員】

あけぼの学園の酒井です。いつもお世話になっています。

少子化の中、ある意味こどもの取り合いが起きていると言われています。特に保育園の園児が減っている、幼稚園の方も減って、だんだん認定こども園化していて、こど

もの受け入れを多くしています。少ないところはどうかというのと、障がいのこどもを受け入れるという形になっている。ですので、障がいのある子が保育園に行きやすくなっている。これはたぶんいい方向ですけれども、そういった傾向は全国的に出ている。一方で障がい児の通所事業所は増えています。足立区ではあまり目立っていませんが、幼稚園や保育園の中に児童発達支援を作り、そこで併行して通わせている園も増えていて、全国的には障がいのある子どもの通所受給者証の発行者数、利用数は右肩上がりに増えているところがあります。

足立区の場合、4歳児の気づきのしくみがあって、今すぐ足立区の方で、5歳児健診をやるという方向には行かないということだと思いますけれども、発達障がいの早期発見ということが、これまで以上に進んでいるということができます。今後しばらくは子どもの数は減っていきますが、そもそも足立区は、人口が減っていません。増えていますので、もう少し子ども達は増えていくのではないかと、支援を必要とする子も増えていくのかなということはあると思います。

【小谷部会長】

働く保護者が増えているという報告もありました。

【酒井委員】

それは増えています。

【小谷部会長】

親子通園は減ってきていますか、そうでもないですか。

【酒井委員】

うめだ・あけぼの学園の親子通園は、減っ

ていません。ほかの地域の方ともお話ししたのですが、なぜ、知的障がい系の親子通園は成立して、肢体不自由系の親子通園が成立しないのかというのは、肢体不自由系の保護者というのは、24時間ケアの問題が大きくて、知的障がい児の保護者ももちろんストレスは抱えているのですが、肢体不自由児、特に医療的ケアの必要なお子さんの保護者は切羽詰まった感があります。自分が倒れてしまえばこの子は死んでしまうという危機感・負担の大きさというのは全然違います。その辺から少しでも離れることができればという気持ちは強くなる。だからこそ肢体不自由系の、医療的ケアを必要とする子どもの保護者は親子通園ではなく、子どもを預かってくれるところ、専門的に預かってくれて、こどもが安全でいられる場所に預けたいという気持ちは知的障がいの保護者より、肢体不自由系の保護者の方がニーズとして、強く出ているだろうというようなことが今の動向に表れているということではないかと思います。旧医療型児童発達支援センターにこどもがいなくなっているのは、本当にその通りで、すぐ近くにあるよつぎ療育園も確かゼロです。そこだけではなくいろいろなところで起きている。知的障がいの子は決してゼロではなく、もちろん預けられたらそれはいいけれど、通いで保護者が連れてくるような場合もありますけれども、こどもたちは来ています。保護者も来ています。全部の保護者がそうなっているわけではなく、24時間ケアをしなければいけない、彼らの命が自分の手の中にあるというストレスの大きさがあるのではないかと思います。

【小谷部会長】

城北分園の現状を共有したいと思います。

私も日本小児リハビリテーション学会の会員なので、肢体不自由のところ、定員割れしているということを聞いています。社会の構図が変わってきているのではないかと感じています。

【河野委員】

北療育医療センター城北分園で、ソーシャルワーカーをしている河野です。やはり保護者は働きたい方もいますし、ずっと一緒にいるのはすごく大変だと思います。医療的ケアの方も多いですが、医療的ケアのない方も日中、働きたい方はいますので、週に1～2回来られるかという保護者が多いです。都立の施設なので、民業は圧迫してはならないけれども、かといって、どれだけ地域のニーズ、保護者のニーズに応えていくのかというのは、今も課題となっています。税金を使っている施設ですので、今後どうしていくのかというのは、大事な課題となります。皆さんのいろいろなご意見をいただけると、とても参考になります。

【小谷部会長】

医療的ケア児の行き場がないというところで、医療的ケア児の保護者の負担感は大きく、動きまわる医療的ケア児は、本当に受け入れ先がありません。動く医療的ケア児は、自分で抜去して、それでも動きまわる。知的な遅れがあることもあるので、保護者も疲弊していますが、病院側も児童養護施設も、そういった子は受け入れられないということが多くなっています。

現状は、いかがですか。

【飯田委員】

足立児童相談所の飯田と申します。今、小谷先生がおっしゃっていた件ですけれども、

やはり障がいのあるお子さんで、知的と身体両方があるお子さんの行き場がないということで、本当に困っています。ワーカーさんの方で、もうこれ以上面倒がみられないというようなことで、保護してほしいと言われても、一時保護所では見られない。医療的ケアが必要、ということで病院にみてもらったとしても「1ヵ月が限度です」と、やっと見つけた病院でも1ヵ月でまた出されてしまう。次々に受け入れ先を探さなければならない状況にあります。病後施設では、何らかの医療を受けている子は、うちの範疇ではありませんということで全く話を聴いてもらえないような状況になってしまうので、結局、都立の医療的ケアが必要で、知的に重度の子が入れる所が空くまで、ずっと行けないような状況になっているところでございます。

【小谷部会長】

昨日の新聞に保護者が学校側を訴えるというような記事が載っていました。医療的ケア児のことで、保護者が学校側を訴えています。学校側が気の毒というか、快く受け入れたのということもあるかと思うのですが、支える側としても気にしてしまうのではないかと思います。是非そのあたり聞かせていただきたいと思います。

【中村委員】

花畑学園では知的部門と肢体部門と両方あって、肢体部門も知的部門も両方とも医療ケアのお子さんがいます。常勤看護師2人、非常勤看護師14人が配置されていますが、業務的には足りていない現状にはあると思います。看護師さんはよくやってくれています。人数が少ない中、日々体制を組んでやってくれています。知的の方にも医療的ケ

アの胃ろうであったり、気管切開していたりといった方がいます。私もこれまで知的の学校、ろう学校、支援級の配属で、はじめて肢体部門のある学校に異動してきて、医療的ケアのある知的の子にも出会いました。今の花畑学園です。知的障がい児で胃ろうをしている子の注入場面では、チューブを入れたまま走り出してしまうとか、本人は楽しそうに笑っているけれども、看護師さんが慌てふためくなんていうこともあります。元気な走り回る医ケア児の支援の難しさとか、大変さとか、本当に命に直結する肢体系の医ケアの子の大変さとかを感じます。

【小谷部会長】

今まで訪問籍だったこどもが、法律ができたことによって通学できるようになりました。

【中村委員】

訪問籍だった子が通学籍に変わった子もいますし、呼吸器でつないでいる方もいますので、通学するとバイタルを常にチェックし、何かあったらすぐにつけつけないかといったことを、一日何回もやっている感じですね。私自身も、勉強させてもらっています。教員全体で連携しています。肢体も知的も関係なく、学校によっては部門でちゃんと分かれている場合もあるみたいですが、花畑の場合は知的も肢体もひとつの学校、1校5学部といっています。私は通常は知的の方にいますが、肢体の方にもかけつけるなど、何かできることがあればするという形で、教員全体で命を守るということで動いています。

【小谷部会長】

ありがとうございました。またグループになっていただいて、10分くらい来年度

のテーマについて話し合っていたきたいと思います。

<グループ討議>

【小谷部会長】

それでは、第1班より今後の課題についてお願いします。

【寺山委員】

足立つくし幼稚園長の寺山と申します。具体的なことというよりも、自立支援協議会のこども部会なので、「自立」ということと、「こども」ということをキーワードに関連するいろいろな職種の人たちが顔を合わせて、ここでネットワーク作りを行えるのが良いと思います。普段はそれぞれ独立して活動していて、みんないっぱいいい状態、結構孤立しています。みんなそれぞれ頑張っているなど、わかるだけでもすごく心強い会だなと思っていますので、顔を合わせてネットワーク作りをしながら、それぞれの場所での問題の洗い出しをおこなって、出てきた問題についてみんなで話し合っていくうちに、何か解決につながることもあるかもしれないですし、そのようにすすめていけばよいのではないかと思います。小谷先生は話題が大変豊富なので、いろいろな話題を提示されて、そこで話をしていくことがとても刺激的で、ここ最近の話題を私たちも知ることができるので「ネットワーク作り」と「問題の洗い出し」、「こども」の3つということをコアな話題としながらここで学んでいきたいと思います。

【石原委員】

あやせ保育園長の石原です。横のつながりということでやってきましたが、まだま

だ足りないと思います。話すという課題が出てくるということでは、このネットワークは顔が見える、そして今日みたいなグループ協議があると、もっと深く自分のところでの話ができるので、良いと思いました。

国の動きや都の動き、行政の動きというところなど、現場では知りえない情報を学ぶ場であったりすることも、引き続きお願いしていきたいです。施設をいくつか見られたことも良かったと思います。

【川松委員】

ねっとワーキングの川松と申します。継続的に委員を続けている中で、顔の見えるネットワーク作りや連携がとれた事例もあり、これからも、出来るところでやっていければいいかなと思います。

また、来年度は、ここで上がった課題を各関係機関に報告し、この場での話し合いがどのように外で成果となっていきたいのか、その流れのようなものをシステム化していき、それが私たちこども部会員にもフィードバックされると良いのではないか、という意見が出ました。

【小谷部会長】

今回は前回学生が話したのを、川松さんの方で学生に声をかけてくれて、自閉症協会の「プリズム」の会報に掲載することができました。私が知らないこともいっぱい書いてあったりしましたので、いい機会をいただいております。学生も自己開示するきっかけとなったみたいで、良かったです。引き続きよろしくお願いします。

【相澤まり子委員】

ハートぽっぽEASTの相澤です。今回、榮さんから保護者の意見をお伺いすること

が出来ました。こども部会の活動としては、とても充実した活動なのですが、それが保護者の方に届いているかというようなところについて、とても貴重な意見をいただいたと思います。最終的に必要な支援が保護者に届けられているかというのは、地域で支えてくれる人がいるかどうか、それがたまに開かれる会議だけでは難しいので、どのようにして、保護者や家族を日常的に支えていけるかという話にもなりました。榮さんの提案する方法として、保護者同士が手をつなぐということで、いろいろな取り組みをされ、配信もされているそうです。保護者同士のつながり、保護者にどう伝えるかというのも、今後の課題ではないかという話をしました。以上です。ありがとうございました。

【小谷部会長】

私事ではありますが、実はインクルーシブのコンサートを開催する予定です。大学生の中にも当事者がいて、いろいろな活動を通して、地域とつながっていくということで、ぜひ、学生たちも育てていただきたいと思います。

こうした意見を踏まえて、区としてはどのようにしていくのかということ、自立支援協議会の本会議に向けて、また今日の話し合いを受けて所長としてのご意見をいただけたらと思います。

【高橋委員】

今、4つの班からご意見をいただきました。1班は寺山委員から、ネットワーク作りを中心に置きながら、その中で解決策を導いていくという形であったかと思います。

2班の石原委員からは、いろいろな情報を共有する中で、自分たちが知らない知識

をこういう場で得ることによって、それぞれにフィードバックされていくのではないかといった趣旨だったと思います。

3班の川松委員は、会議の内容がどのように外に活かされているのかという、成果が活かされるシステム作りというようなニュアンスだったと思います。

4班の相澤委員からいただいたのは、最後は保護者同士で手をつなぐつながりというところに向けてのこども支援ということだったというように認識をしています。

3班の川松委員からの、協議会の活かされ方ですが、自立支援協議会というのは、障害者総合支援法上のネットワークになっていて、諮問機関ではないということが言えます。区長が諮問をして、それに対して答申するという機関ではなくて、ネットワークを中心とする流れの中で行っています。

具体的にどのような活動になっているかというと、6つの部会があって、それぞれの部会を年3回程度やっています。各回の内容を足立区のホームページで公開していて、年度末の本会議に向けて、それぞれの部会がまとめていきます。

年度末の部会で出た結果をどう活かしていくかというところで、関係する所管は集まっています。

出てきた結果の中で、できる部分については、それぞれが考えてやっていくというような状況です。今の自立支援協議会はあくまでもネットワークを中心に行っています。それを改善するということになりますと、自立支援協議会のシステム全体を変えなければならないことにもなります。

令和7年度のテーマは横の連携ということでした。1班のお話は、これを継続すると

というようなイメージだったと思います。2班も継続というイメージです。私たち3班は、保護者同士のつながり・横の連携とそれぞれがみんなこどもたちのことをよく考えて、進めているけれども、それが横の連携ということばを使わせてもらおうと、似ているのではないかと思います。

つながっているのだろうかという部分を課題意識としているところがあることは共通しています。横の連携ということ 키워ドにして、継続していくというのをまとめとしてよいのではないかと事務局としては思いました。

【小谷部会長】

では、このままで継続ということでしょうか。

【酒井委員】

「自立支援協議会の成果は？」と質問したのは私ですが、自立支援協議会の位置づけの確認です。あくまで、ネットワークに留まるのか、足立区の障がい児支援計画などを見ていると、自立支援協議会の合意を得てとか、自立支援協議会で課題を抽出してとかいうことが出てくるんですけども、そういったプロセスを経ていないのではないのでしょうか？このあたりの関係性をどう考えるのでしょうか？

ネットワークならネットワークで良いのです。我々がお互いに知らないことを知る、今、何が話題となっているのかということで、それをそれぞれが持ち帰ることが成果になるというのであればそれでいいのです。自立支援協議会の役割が課題抽出を受けて、それに対して課題解決に向けてみんなで取り組んでいくということが入って来るのか、入って来ないのか。障がい児福

祉計画の中には入っているように思える。
この辺のずれをどのように考えますか。

【高橋委員】

自立支援協議会に関わって1年になりますが、そのあたりの流れがどのようなになっているのか、確認していきたいと思います。

【事務局 和田】

今期は昨年度と今年度の2年間で、福祉計画との関係で申しますと、福祉計画の策定についてご意見をいただくという機会がない期になっておりまして、来年度11月か12月の本会議で計画案についてのご意見をいただくというプロセスを経ることになります。現在の障がい児支援計画のときには、柱立てやパブリックコメントと並べて協議会の意見を掲載させていただいています。意見を聴くということについては、そういった形で取り組んでいるところです。

【酒井委員】

そうであれば、ネットワークにはとどまらないのですよね。今の話だと障がい児支援計画が来年度最終年度になって、来年度新しいものを作ることになっていると思います。こども家庭庁の方で来年度中身を大きく形を変えようとしている。その中で言ういろいろなところから上がってくる話を踏まえて、障がい児支援計画を作っていく必要があると思います。そうすると、単なるネットワークではなくて、課題の抽出が必要になってきて、ということになると思うので、あり方がずれているのではないかと感じるのですよね。この辺で、この場でどこまでやるのか、どこまでの役割なのかというそもそものを整理してほしいなという意味で先ほどの話をさせていただきました。

【高橋委員】

今、和田係長からの話がありましたが、計画の検討は自立支援協議会の本会議でやっています。部会の中で課題を抽出して、そういう課題があるということを本会議に上げるということを継続しながら、障がい児計画の諮問があったときに、その部分を入れていくというような流れ、その計画に対して何を実践できるか、何をやっているのかというのは、区役所の方で作っていく。次の期には何をどうやれたかの見直しをするというような流れになっているのかなと思いました。

こども部会から本会議には、小谷部会長が出席しています。本会議では部会の報告をしていますが、ネットワークに留まらず課題を出すというところまでが部会の役割ですね。

【事務局 和田】

自立支援協議会の活動報告書のところでこの2年間協議された主な内容、抽出課題と柱立てというところを、活動報告書の全体のところで整理して上げるという形になっておりまして、前の期の活動報告書を御覧いただけると、抽出課題も載っています。こども部会での課題抽出は行っています。

【司会 浅輪】

本日はグループ討議ということで、いろいろなお意見を出していただきましてありがとうございます。今日の話合いの内容を事務局でまとめまして、部会長とも確認したうえで、本会議の方に報告していきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

今年度第2回の本会議は、令和8年2月27日金曜日の14時からということで、こども部会からは小谷部会長にご出席をい

ただくということになっています。このメンバーで令和6年度・7年度とこども部会にご参加いただきましたけれど、今日の会を持ちましてこのメンバーでの会は最後ということになります。みなさま2年間ありがとうございました。また、新しいクールが始まりますので、引き続き委員となられた場合は、よろしくお願いいたします。

これで、こども部会を終了したいと思います。ありがとうございます。